



食包協会報 第178号 (2023年4月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。このたび178号(2023年4月号)を公開致しました。今号では4編の記事を掲載しております。

まず、最初の記事では「(一社)日本食品機械工業会のご紹介と活動について」と題しまして、一般社団法人日本食品機械工業会の谷澤俊彦様に同会の沿革や活動内容についてご紹介をいただきました。食品機械の中には、当然、包装・充填に関わるものも含まれますから、この機会をきっかけとして活動や人員面における当会との交流が加速化されることを期待したいと思います。

次の記事では「100%自然由来の生分解性樹脂を使用した包材の展開」と題しまして、味の素株式会社の高橋和也様、伊藤忠商事株式会社の谷本光紀様、伊藤忠プラスチック株式会社の小林聡様、東洋インキ株式会社の宮川匠様および門脇亮様に、東洋インキ株式会社で開発された100%バイオマス由来の生分解性樹脂を使用したヒートシール剤と、それを使用した紙製包装資材の使用事例について、具体的な商品を挙げながら紹介いただいております。紙系包装資材の100%バイオマス由来化の達成事例であり、様々な食品への活用が期待される内容です。

その次には、「液体滑落技術の食品容器への適応可能性」と題し、国立研究開発法人物質・材料研究機構の天神林瑞樹様に、液体滑落技術について解説いただいております。これまで、包装における食品ロス削減は主に一次機能である保護性が担ってきたといえます。一方で、本技術を包装容器に適応できれば、液体・半液体食品の容器内における「取り残し」の削減を果たすことが可能となります。このことは二次機能である利便性(便利性)が食品ロス削減への貢献を果たすという新たな展開を示唆するものと言い換えることができ、そういった点においても非常に意義深い内容といえるでしょう。

最後に「静岡県における青果物の輸出拡大に関する取り組み」として、静岡県立農林環境専門職大学の池ヶ谷篤様に静岡県が実施した船便によるシンガポールへの青果物輸出に関する実証試験の概要についてご報告いただいております。政府が掲げる目標である「2030年農産物輸出5兆円」への貢献が期待される貴重なデータが示されており、関連する産業・学術双方の分野での展開も楽しみです。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、これからも魅力ある記事の発信に努めて参る所存ですので、引き続きご愛読のほどどうかよろしくご厚意申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受け下さいました谷澤様、高橋様、谷本様、小林様、宮川様、門脇様、天神林様、池ヶ谷様に心から厚く御礼申し上げます。

2023年4月10日

広報活動委員会委員長 北澤 裕明